

中学生期の顔症状とリバウンドを経た小児アトピーの経過 (17 歳女性)

症例 ID：001-17-HJ2 | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

中学 1 年の時、背中にあせものような症状が出て、近くの皮膚科でアトピー性皮膚炎とされました。弱いステロイドと説明され、11 月頃まで様子を見ながら塗っていました。

首に赤い横じまができたことをきっかけに、東洋医学の治療を探し、食事や運動制限がないことを知って松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	中学 1 年時に背中の症状に対して、弱いステロイドと説明された外用薬を使用しました。小児期の耳鼻科薬にもステロイドが含まれていた可能性が示唆されています。
製品名	不明。
強度	不明。弱いステロイドと説明されています。
使用期間	中学 1 年の秋から 11 月頃まで。
中止時期	松本医院受診後、ステロイドを使用しない方針となりました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
中学 1 年秋頃	来院前	背中にあせものような症状が出て、ステロイド外用薬を使用しました。
中学 1 年 1 月 31 日	治療開始	松本医院を受診されました。当時は湿疹もほとんどなく、煎じ薬を 1 日 3 回飲んでいました。
治療約 6 か月後・中学 1 年夏	リバウンド開始	顔に湿疹が出始め、顔つきが変わるほどになりました。
中学 2 年夏休み	ピーク期	暑い時期に消毒と薬湯を繰り返す生活となり、夏休みが非常につらい時期になりました。
中学 2 年 2 学期	ピーク期	状態はさらに悪くなり、リンパ液も出るようになりました。体育祭の練習時にはガーゼで保護していました。
10 月末頃	回復傾向	顔の湿疹が治ってきました。首には色素沈着が残り、髪で隠していました。

中学 3 年夏	経過後	髪をショートにできるほど見た目は良くなりました。IgE は 1600～1800 の間で推移していました。
高校 2 年時点	経過後	IgE は約 1200 ありましたが、元気に登校していました。

4. ピーク時期

ピークは、中学 2 年の夏休みから 2 学期にかけて、顔症状に加えてリンパ液が出るようになり、消毒と薬湯、ガーゼ保護が必要だった時期です。

5. 困りごと

- ・年頃の女子であり、顔の湿疹や首の色素沈着を髪で隠す必要がありました。
- ・体育祭の練習で体操服を着る時間が多く、リンパ液が衣服に染みないようにガーゼで保護していました。
- ・夜が怖いと感じるほど、かゆみや皮膚状態への不安が強くなりました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

項目	内容
IgE	中学 3 年頃：1600～1800 の間で推移。高校 2 年時点：約 1200。

7. 経過のまとめ

中学 1 年の治療開始後、約 6 か月して顔に湿疹が出始め、中学 2 年の夏休みから 2 学期にかけてリンパ液を伴う強い時期を経験しました。10 月末頃には顔の湿疹が治ってきました。

中学 3 年の夏には髪をショートにできるほど見た目は良くなり、受験期にも大きなリバウンドはなく志望校に合格しました。高校 2 年時点では IgE は約 1200 でしたが、元気に登校していました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。